

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 22 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	ジェンダー論
担当教員名	飯野智子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

学生には何度かリアクションペーパーを提出させた。これまでの授業内容から自分で新たに学んだ事や考えた事を振り返ったり、自分の関心のあるテーマについて分析させたり、また、授業で取り上げた世論を二分するような問題に関して、自分の立場や主張を述べさせた。さらに、なかなか質問を直接してこないなので、質問を書かせた。これらの中から皆の参考になるようなものについては氏名を伏せて発表した。

授業内容のまとめや自分で学んだ事、感想についてはかなり沢山書いてくるが、質問についてはあまりない。ただ学んだ事を納得するだけでなく、そこからさらに広く知識を求めたり深く考えたりすると質問も出ると思う。摂食障害や美容医療、美容産業の動向や男性の美容、代理出産など、今日的で学生達に関心を持てるような内容からジェンダー問題を考えられるように、扱うテーマを決定している。

ドメスティック・バイオレンスや児童虐待といった問題は、資料を配布し、実際の施策について知識が得られるようにした。また、心理や関係性といった面からも分析し、多様なアプローチで、問題を理解しやすくしたつもりである。

今後は、リアクションペーパーをもっと頻繁に利用したい。また、参考資料もさらに活用したい。関連文献を読ませ、読書ノートや感想文を提出させるのも授業理解に有効であると考えている。また、今年度は行わなかったが、学生のダイエット経験や美容医療への関心などを書かせると、身近な事でも女性誌と学問とは全く扱い方が違うという事が理解できると思うので、来年度はまたそのような事を書かせたいと思う。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 22 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	女性と職業
担当教員名	飯野智子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

学生には何度かリアクションペーパーを提出させた。最初は自分自身の就きたい職業、結婚、出産に際してどのような選択をしたいと考えるかなど、女性が働く上で考えられる転機を自分に引きつけて考えられるようにした。学生はかなり具体的な計画を持っていて、現実的に考えている。これらは授業内で発表するなど、他の人がどう考えているのかを知らせた。女性労働の歴史については、現代の状況とあまりに違う事に驚いた学生が多かった。なるべく具体的にイメージできるように、例えば女工の生活を年齢や境遇などを設定して、紹介した。また、現在の女性労働について、パートタイマーや派遣労働者の様子や生活も同様に、統計資料から平均的なモデルを抽出し、同時代を生きる人として具体的にイメージできるようにしてみた。

授業の感想や質問では、学生は近代史をある程度理解しているが、それを女性の労働と結びつけて考えた事がなかったので、政治・経済の動きと女性の労働がどのように結びつくのかよくわからないということがわかった。そこで後半は、戦争時における女性の労働や、高度経済成長期、男女雇用機会均等法・育児介護休業法の成立などの説明で、なるべく歴史の流れを理解しやすいよう解説した。

今後は、リアクションペーパーをもっと頻繁に利用したい。また、参考資料も積極的に活用したい。関連文献を読ませ、読書ノートや感想文を提出させるのも授業理解に有効であると考えている。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学 部

記入年月日	2015 年 2 月 26 日
科目区分 (該当するものをに〇)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (〇) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年(該当するものをに〇)	(〇) 1 年 () 2 年
授業科目名	原稿編集
担当教員名	居郷英司

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

学生に行った一般的なフォーマットによる授業アンケートの結果を踏まえて、授業改善の取り組みについて、報告する。

まず、授業アンケートの結果は、以下のとおりである。

「1 予習・復習の習慣」については、「全くしない」40%、「たまにすることがある」60%、「ほぼ毎回する」「毎回する」はともになかった。

「2 授業の難易度」については、「理解できないときがある」「ほぼ理解できる」が、それぞれ47%、「難しい」が6%であった。「易しい」はなかった。

「3 授業の進行スピード」では、「ちょうど良い」が87%で最も多く、「やや早い」が13%あり、「早い」「やや遅い」「遅い」はなかった。

「4 その他授業に対する要望」では「声が聞き取りにくい」とする声が1件あった。

このアンケートの結果を見る限りにおいては、一定の水準に達してはいるものと思われる。より改善していくためには、予習・復習を促すような課題を与えることが考えられる。現在も数回は課しているが、もう少し増やす方が、より理解を助けられると思われる。

さらに、昼食後の3時限目ということもあるためか、船を漕ぐ学生が散見されることがあった。一方に講義するだけでなく、質問をしたり、問題を解かせるなど緊張感をもたせるように努めたい。

なお、「声が聞き取りにくい」との指摘には、奥行きより横に長い教室の関係もあるかと思われるが、より聞き取りやすくなるよう心がけて話すようにしたい。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 26 年 1 月 31 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年(該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	Grammar & Usage 1B
担当教員名	大島幸治

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

この授業においては、参加者の英文法の基礎知識の基盤を固めること、英語学を専門的に学習するための橋渡しになるべく、高校レベルより数段階み込んだレベルで詳細な解説を行うことを目指している。そのためオリジナル・プリントを作成し、授業に臨んでいる。

学習効率を上げるため、毎回、予習課題として文法項目を掲げた問題プリントを配布する。翌週、そのプリントについて問題の解答とその解説、問題解答のための着眼と関連する文法知識について黒板に詳細に書いて説明することを行う。その上で、板書する内容をカバーした解答・解説プリントを配布し、自宅での復習の便宜を図っている。そして次回授業のための予習課題を配布する・・・このようなローテーションで授業を進めている。

前期においては、VP 関連に集中した詳細な解説を行い、後期においては、名詞のイメージの問題から入り NP について、形容詞、形容詞句、形容詞節と拡大し、英文の情報構造の解説と共に副詞、副詞句、副詞節、さらには重要構文の説明へと体系的に解説を行って、学生の理解を高めようと試みている。

さらに英文法の基本を学習するための授業であるが、学生のモチベーションを高めるため、そのニーズについて授業内で学生といろいろ対話をしている。それにより前期 Grammar & Usage 1A においては、TOEIC のスコアをあげる目的で2種類のプリントを作成し、配布し、毎回、指定箇所の小テストを実施した。

その2種類とは、

- 1.生活いろいろの場面で頻出する語彙を強化するための図解プリント
 - 2.TOEIC テストで設問で出題されやすい表現についてのプリント
- である。

後期、Grammar & Usage 1B においては、TOEIC テストへのモチベーションが無いため、新聞・雑誌を読むようにするための国際政治・経済関連の単語プリントを用意し、英文とその日本語訳を掲載し、その単語の使われ方および多義的な側面についての簡単な補足を行い、翌週、それについて小テストを実施して学習効果を確かめることを毎回行っている。

加えて、教室内では学生との対話を重視し、学生からの質問や追加で補足してほしいとあがってくるテーマについて、プリントを配布するなどの対応を行っている。内容のレベルについて、難しいと受け止めるむきが一部にあるが、復習する際に困らないためのサービスを提供していることが理解についての効果をあげているものと思われる。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 19 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 () 2 年
授業科目名	ホテル実務
担当教員名	加藤雅一

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

教育効果の向上を目的として、復習を兼ねて半期に 3 回 授業中にレポート提出を行いました。
実施した授業アンケートのご要望にお応えする形で、次年度の講義にホテル見学を行い、ホテルの業務やホテルスタッフのサービスについて学びます。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	H26年 1月 21日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	日本語を教える2
担当教員名	久池井 紀子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

平成 26 年度、後期の後半の授業で授業アンケートを配布し、翌週回収した。

アンケートの内容は、難易度、および進行スピードである。なお、当該科目は予習がしにくい部分が多いため、予習についてはアンケート項目からはずした。

アンケートの結果、以下の回答が得られた。回収は 37 枚、有効回答も 37 枚である。

① 難易度について

やや難しい : 2名

ちょうど良い : 33名

やや易しい : 1名

易しい : 1名

② 進行スピードについて

ちょうど良い : 36名

やや早い : 1名 (コメント⇒ちょうど良いときとやや早いときがある)

アンケートの回答の大半が①②とも「ちょうど良い」であったため、そのペースを崩さないように注意しながら、授業を進めた。また、②のコメント、「進行スピードがちょうど良いときとやや早いときがある」については、心当たりがあった。授業スケジュールの関係で先を急いだときである。そのため、ペース配分に留意しながら、授業を行うように心がけた。

以上

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015年 2月 16日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	情報リテラシー1b
担当教員名	久保 ちづる

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

1. 教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について

① 補助教材や補助資料の準備

理解を深めさせるために、「練習用データファイル」や「資料プリント」を作成

② manaba の利用

「コンテンツ」…教材や資料の配布、授業内容の連絡

「レポート」…課題の指示と提出

「アンケート」…アンケートの実施と回収

③ マウスポインタの拡大表示

スクリーンが教室の廊下側に（しかもホワイトボードと平行に）設置されているため、窓側前方の席からは遠くて見づらい。さらに、406 教室では Active-School が使用できないため、学生が学生自身の画面と教員の画面を並べて表示しながら操作することができない。これらの問題が解決できるわけではないが、少しでもカバーするようマウスポインタを拡大表示した。

※ 受講生が定員一杯（期末には 37 名）であったため、当初は窓側の最前列の席で受講しなければならない状況がありました。

④ 検定対策（後期終了後に学内で実施される「サーティファイ Excel 3 級試験」に備えて）

- 受験プログラムを含んでいる模擬問題を実施し、検定の基準に沿って採点し、返却・復習
- 定期試験も、検定の基準に沿って採点し、返却・復習

2. 学生の要望に対する対応（フィードバック）について

① 第 6 回授業終了時に実施したアンケートによる要望と対応（2 クラス合わせて 55 名回答）

「記入欄」に書かれた要望など	対 応
助手の先生をもう一人増やしてほしい。もう少し進度をゆっくりにしてほしい(1人)	何度も質問の手が挙がる該当学生に、アシスタントと共に対応した。カリキュラム上、進度を変えることは難しいため、該当学生には気を配りながら進めた。
少し話が速い。大事なところは何回か繰り返してほしい(1人)	繰り返し説明することを心掛けた。

窓側の一番前の席で授業を受けたらプロジェクター（スクリーン）が見えなかった（1人）

公平にするために、当初から座席は自由とした。早めに入室して好みの席に着くよう指示した。

② 第15回授業終了時のアンケート結果（2クラス合わせて42名回答）

※manaba アンケートメット切時間の設定の影響で、一方のクラスが24名中7名提出、もう一方のクラスが37名中35名提出

<アンケート項目1> 授業の予習または復習をしましたか。	2クラス合計	
	回答数	割合
全くしなかった	9	21.4%
たまにした	27	64.3%
ほぼ毎回した	4	9.5%
毎回した	2	4.8%
合計	42	100.0%

<アンケート項目2> 授業の難易度についてどう思いましたか。	回答数	割合
	難しかった	5
理解できないときがあった	7	16.7%
ほぼ理解できた	28	66.7%
易しかった	2	4.8%
合計	42	100.0%

<アンケート項目3> 授業の進行スピードについてどう思いましたか。	回答数	割合
	早かった	1
やや早かった	7	16.7%
ちょうど良かった	27	64.3%
やや遅かった	7	16.7%
遅かった	0	0.0%
合計	42	100.0%

自由記入欄に書かれた要望	備考
課題に取り組む時間をもっと欲しかった（1人）	記入した学生は、授業の予習復習を「全くしなかった」と回答

③ フィードバック

1回目の授業で実施したアンケートでは、相変わらずExcelに苦手意識をもつ学生が多かった。授業終了時には多くの学生が自信を得たように見受けられたが、第15回授業で実施したアンケートを見てみると、「難しかった」または「理解できないときがあった」と回答した学生が12名。その12名のうち予習復習を「全くしなかった」が2名、「たまにした」が8名である。授業以外では見たくないほど苦手ということなのか。課外でも学習する環境を作るよう努めたい。

次年度は、学生の学習状況や理解度を各学生と共有し、確認し合いながら自信をもたせて進められるような方法を考えてみたい。

3. 学校に対する要望

- ① 406・407・408 教室のスクリーンの位置を、全ての席から見える（見やすい）ように移動していただきたい
- ② 406 教室にも、キャラボに加えて Active-School を導入していただきたい

4. 所感

第 15 回授業終了時のアンケートの自由記述欄には 69%の記述があり、「Excel は Word と違って少し難しかったが、練習する回数が増えるごとに理解が深まった」、「関数を利用して数値を求めることがスムーズにできるようになり、パソコンやエクセルに対して理解度が上がった」、「課題は面倒だけれど、やっておいた方が力になるのであってよかった」「これで会社に行っても恥ずかしくない」「検定に合格できるようがんばる」「試験も大丈夫そう」という声が満ちていて頼もしかった。今年度は Excel2007 から Excel2013 にバージョンアップし、「3 級」において知識試験が無くなったことで、昨年までに比べ、学生側にも教員側にも時間に余裕ができたと感じる。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 1 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： (○) 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 () 2 年
授業科目名	インテグレートドイングリッシュ
担当教員名	栗田智子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

インテグレートドイングリッシュにおいて、教育向上を目的として実施した取り組みは、プログレスカードの導入、基礎文法事項の復習セッション、「文法九九」と「調整和文」の導入、毎時間の復習テストの 4 点です。

プログレスカードに、学生ごとに英語学習の長期目標と短期目標を書いてもらい、毎時間授業の最後にその日の学習でできたこと、できなかったことなどを記録してもらいました。それによって学生が自分の学習状況を把握し、学習ストラテジーをもつようになることを目指しました。一方教師にとっても、ひとりひとりの学生の学習の様子が把握でき、それを次回の授業や、復習テストづくりに生かしました。また教師は必要に応じてコメントを書きました。

基礎文法の習得が十分ではない学生には、教科書の長文読解が難しいと思いましたので、教科書に入る前に、基礎文法、特に 5 文型の復習セッションの時間をとり、語順と文構造を把握する練習をしました。

教科書用のワークシートでは、「調整和文」という英語の語順で日本語訳を書いたものをつかい、英語の語順を意識し、英語の文構造の理解を促進するように工夫してみました。また「文法九九」という時制を覚えるシートを使い、時制の変換ができるように練習しました。

毎時間の初めに必ず復習テストをし、語彙の習得と文法及び表現の習得状態を確認しました。テストの点数は、プログレスカードに記入してもらったので、学生自身も毎回のテストを意識するようになり、よく勉強していました。

最後に、学生からの要望は特にありませんでした。廊下側の席から、窓側の白板が光を反射して見えにくいとの声があった時は、板書を見えるところへ書き直しました。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学 部

記入年月日	2015 年 2 月 24 日
科目区分 (該当するものを0)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (o) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年(該当するものを0)	(o) 1 年 (o) 2 年
授業科目名	情報コミュニケーション
担当教員名	鈴木裕信

記 入 欄

- 1つのテーマに対して座学(2)・パソコン実習(1)・グループ討議(1)・発表のローテーション(1)を作り、受動的・能動的な授業をバランスよく組み立てた。(カッコ内はコマ数)
- 15回授業で3つのテーマ用意し、1のローテーションを3度繰り返すことにより、パソコン・インターネットスキル、グループでの討議スキル、プレゼンテーション・スキルの熟練を目指した。
- 授業専用のサーバを用意し、ドメイン名 johoskill2014.me を取得し、ブログ・システム Wordpress を稼働させ、一人一人にブログを管理させた(尚、パスワードにより外部からはアクセスできない)。最新かつ実践的な情報環境を教材として与えた。また受講生による毎回の授業へのフィードバックはブログを通じて行った。
- 授業改善アンケートでアンケートサイト SurveyMonkey を使いデータを収集した(アンケート総数 11)。結果は以下の通り。

あなたは、この授業のためにどの程度予習・復習をしましたか？	ほぼ毎回おこなった (80%以上)	だいたい毎回おこなった (79-60%)	半分ぐらいはおこなった (59-40%)	あまりおこなわなかった (39-20%)	ほとんどおこなわなかった (20%未満)
あなたは、この授業にどの程度熱心に取り組みましたか？	1	5	5	0	0
あなたは、この授業をどの程度出席しましたか？	6	4	1	0	0
あなたからみて、この授業の進むスピードは適切でしたか？	4	3	4	0	0
あなたからみて、この授業の教材などはどの程度充実していましたか？	3	5	2	1	0
あなたからみて、教員の指導や説明はどの程度熱心でしたか？	3	7	1	0	0
あなたからみて、授業内容に対して教員の教え方はどの程度わかりやすかったか？	3	6	2	0	0
あなたは、この授業によって自分に必要な知識を深めることが出来ましたか？	4	5	2	0	0
あなたは、総合的に判断して、この授業にどの程度満足しましたか？	4	5	2	0	0

表 1: SurveyMonkey を使いアンケートを実施した結果

5. アンケートの自由記入欄の内容以下の通り。

- パワーポイントを使用しての発表は、初めてだったのでとてもよい経験になりました！発表で友人の様々な意見を聞いたりして、考え方や視野が広がったような気がします！
- 人前で話すことが苦手なので、発表と聞いた時はとても嫌だなと思いましたが、就活の練習と思い頑張りました。他の人達と意見を言い合うことにより、新しいことを知ったり、いろんな考え方があることに改めて気づきました。半年の間ありがとうございました。
- この授業では、グループ発表を3回行いました。その発表のために、自分たちで調べることで新たな情報を得ることが出来、そこで SNS などの危険性をより詳しく知ることが出来たと思います。また、「匿名」というのは存在しないと授業で知り、驚きました。全体的に楽しい授業でした。
- 身近にある SNS の仕組みや危険性、問題点や注意事項など知れて、このネット社会の中で使っていくに当たって効果的な使い方や心得を学ぶことが出来ました。近年の技術の発達は驚異的であり、それにもなう制限や決まり事、法律などが追いついておらずたくさん問題が起きています。便利さを求めすぎて人々の命にも関わる事件も起きているので、使う側も提供する側も様々な起こりうる状況を予測し慎重に利用・製作するべきだと学びました。これから世界ではネットや SNS 無しでは成り立たない社会になると思います。その時もこの講義で学んだことを生かし、より良い生活を送れるようにしていきたいとおもいます。前期という短い間でしたが、この度は情報コミュニケーションの講義でお世話になりました。先生もお身体に気をつけてお過ごし下さい。ありがとうございました。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 17 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	芸術概論 b
担当教員名	鈴木祐子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

- ・遅ればせながら、昨年まで一部だったパワーポイントの活用を全面活用とした。
- ・パワーポイントの中により多くの画像を取り込むことで、多様な美術作品を提示した。
- ・レポート作成に際し、調べたことをそのまま理解せぬままコピペするのを防ぐため、手書きに限定した。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 1月 26日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	通訳ガイド演習
担当教員名	野瀬元子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

授業アンケートを実施し、アンケート協力学生（回答者数：17名）より、1. 予習・復習の習慣、2. 授業の難易度、3. 授業進行スピードの項目について次の回答結果を得た。この結果から、概ね授業の難易度、進行スピードは履修学生に適した程度であったことが確認できた。一方、授業に対する要望、改善点について自由記述で回答を求めたところ、「実際に外国の方に通訳の仕方を実践できる授業があればいいなと思います。」という要望がみられた。これについて、履修人数が多くなったことから、校外実習で教員立会いのもとで学生一人一人が実習先にいる外国人を対象に通訳ガイドの経験を持つことが困難になっていることを説明した（本年度の実習先では、教員の前で一人一人、神社の手水舎の使い方の説明実習は行った）。また、来年度より科目名が「東京ガイド論」に変更になる予定であり、校外実習は予定せず、教室内で授業が完結する予定であることを伝え、理解を求めた。

授業アンケート集計結果

1. 予習・復習の習慣がありますか。		
<input checked="" type="radio"/> ①全くしない	3	17.6%
<input type="radio"/> ②たまにすることがある	14	82.4%
<input type="radio"/> ③ほぼ毎回する	0	0.0%
<input type="radio"/> ④毎回する	0	0.0%
いけません。		
2. 授業の難易度についてどう思いますか。		
<input type="radio"/> ①難しい	2	11.8%
<input type="radio"/> ②理解できないときがある	6	35.3%
<input type="radio"/> ③ほぼ理解できる	9	52.9%
<input type="radio"/> ④易しい	0	0.0%
3. 授業の進行スピードについてどう思います		
<input type="radio"/> ①早い	2	11.8%
<input type="radio"/> ②やや早い	1	5.9%
<input type="radio"/> ③ちょうど良い	11	64.7%
<input type="radio"/> ④やや遅い	3	17.6%
<input type="radio"/> ⑤遅い	0	0.0%

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 7 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	() 1 年 (○) 2 年
授業科目名	情報資源組織法 2、情報サービス演習 a
担当教員名	林 哲也

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

「情報資源組織法 2」「情報サービス演習 a」の 2 科目を、報告者は担当していますが、履修者が共通しており、授業の時間割も同じ曜日の連続する 2 コマなので、一括で報告させていただきます。

授業アンケートを実施しました。「授業アンケート(一般的)(短大)」の書式に記入して提出するよう、2014 年 11 月 22 日(土)の後期第 7 週の授業で指示しました。情報資源組織法 2 は 12 月 11 日までに 22 名から回答がありました。情報サービス演習 a は 12 月 11 日までに 10 名から回答がありました。「2. 授業の難易度についてどう思いますか。」に対し「②理解できないときがある」という回答が少なくありませんでした。説明不足な部分の確かにあったことを反省し、わかり易い授業をこころがけるよう、以後の改善に努めました。「4. その他授業に対する要望があれば記入してください。」に記載された内容に対しては、授業の中で回答しました。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 27 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	話しことばの技法
担当教員名	平田由美

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

1. 授業の目標

より良い人間関係を築く上で重要な「話しことば」についての授業である。
コミュニケーションを円滑にするためには、相手の話をしっかり聞き、自分の考えや思いを分かりやすく伝える工夫が必要である。どのような場面においても、落ち着いてきちんと話しができるように、「話しことばの基本・技法」の習得を目指す。

2. 授業改善への工夫

学生にとって初めての経験になるため、ロールプレイ等を用いながらしっかり演習を行なう。
必ず学生一人ひとりに向き合い、毎回、姿勢をはじめ、腹式呼吸・発声・発音の確認をしながら指導を行なった。

同時に日頃からの「ことば」に対する意識と感性に磨きをかける努力が求められる。

3. 授業改善への取り組みと効果

ICレコーダを使用し、「ことば」の向上の確認を毎回学生自身で行なわせる。また、適宜、自身の意見や考え方をまとめさせ、内容を全員の前で発表させる。回数を重ねて「話しことばの基本・技法」への理解度が高まった。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015年2月11日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	キャリアデザイン
担当教員名	福田恵子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

1 授業の目標

生涯を通じての女性として多様な役割、生き方、働き方を考え、「なりたい自分」を見つける。卒業後の進路を見据えて学生生活の具体的なアクションプランを策定する。

2 授業の取り組み

ワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて自分を見つめ、他の人の意見を尊重し自分の考えや思いを伝えられるようになる。

① 自己理解

- ・私の木を作ろう

模造紙に木を描き25の質問に自問自答して葉に書いて貼り付ける。

- ・社会人基礎力検査（アセスメント）

検査結果から社会人として自分の強み、課題を理解してその根拠や改善を考える。

② 職業理解

- ・社会人へのインタビュー

入社3年目以上の社会人に仕事について、働くことのやりがいや大変さ、学生へのメッセージなどをインタビューしてPWを使い資料を作成、発表した。キャリアセンター・同窓会実践桜会共催の「卒業生と働くを話そう」の会と連携、受講者3名が参加し交流した。

- ・企業研究

興味がある企業を取り上げ自分が社員だったらの視点でPRする資料をPWで作成、発表した。

③ キャリアの理解

- ・雇用を取り巻く現状を認識し、女性の生き方、働き方を統計資料から考える。グループディスカッションで意見交換をして自分のライフプラン・キャリアプランを作成する。

- ・労働や女性保護に関する法律を学び、求人票やアルバイトとの関係から法と働くを考える。

④ 一般常識の向上

- ・将来の就職に備えて一般常識を学ぶ習慣を身につける。（問題集から小テスト実施）

- ・ビジネスマナー（電話・名刺交換のロールプレー、社会人の心得など）習得。

2 学生の授業アンケート（2回実施）からの振り返り

① 予習・復習の習慣

一般常識の問題集でほぼ毎回小テストを実施。課題レポートを3回提出としている。

「全くしない」は2割で8割の学生は学習習慣があり毎回する学生も2割いた。小テストの結果も言語分野はスコアが高いが非言語（数学、物理、生物、化学など）は不得意とする傾向があった。

② 授業の難易度

「ほぼ理解できる」は7割、「理解できないことがある」は2割、「易しい」は1割、「難しい」はなかった。

③ 授業の進行スピード

「ちょうど良い」は9割、「やや早い」は1割であった。

3 学生へのフィードバック

毎回の授業でレポートを授業終了時に提出。理解できたこと、質問を書いてもらい振り返るようにしている。質問への回答、レポートへのコメントを記載し学生に返却している。これにより疑問や不安なことへの対応をした。

<授業を受けての感想>（抜粋）

- ・会社や社会のことを初めて知ることがたくさんあった。考えたことのなかった自分の将来を見つめることができた。
- ・就職への意識が変わりました。自分のことを見つめなおす機会にもなりよかった。
- ・今までの自分やこれからのライフスタイルについて考えることができた。自分の人生設計が実現できるように頑張りたい。
- ・漠然としていた未来が少し身近に感じられるようになりました。
- ・自分に自信がなくてやりたいことがなく不安だったけど授業を通してやりたいことが見つかったと思います。
- ・大事だとわかっていても自分の将来について考えることから逃げていた。だけど夢をふくらませて現実を見るのも悪くないというか楽しいと思ったので、これから自分に向き合っていこうと思う。

4 総括

自分と向き合う機会を持ち社会人と触れ合いお互いの考えや思いを共有することで将来の姿が描けるようになった。学生生活での行動計画として勉強(英語、パソコンスキルなど)、無遅刻・無欠席、資格取得、インターンシップ、就職活動など自分の目標を具体的に考えることができるようになった。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 13 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： (○) 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 () 2 年
授業科目名	インテグレートドイングリッシュ
担当教員名	マウラー裕子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

中学、高校で強調されてきたコミュニカティブな英語の弊害として、基礎的な文法知識の欠落が指摘されてきて久しい。それに対応するために、まず一番の基礎である英文の構造を理解することに授業の焦点を置き、主語、動詞をまず見極めることを徹底した。また、5文型を理解することにより、英文読解の基礎をつくることを次の目標とした。

英語力レベルのビギナーにクラスのレベル設定をした上で、調整和文という考えを取り入れ、英語独特の語順と、日本語の語順の違いに気付かせ、読解力の向上に役立てた。システマチックに英文の時制、種類を理解させるために、文法九九を紹介し、学生の英文構造理解の促進に役立てた。これらも役に立ったという反応を多くの学生から得ている。

文法の基礎をやったことに対する学生の反応は良かった。これから英語を学ぶ機会があっても、英文構造の理解をしておいたことにより、多くのメリットを期待できると思われる。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 2 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	オープン講座①小論文
担当教員名	三浦宏文

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

1 教育効果向上のための工夫や取り組み

本講座では、短期大学部生の四年制大学編入試験の小論文対策とともに、大学生・社会人として必要な論理的思考力・表現力を身に付けることを目標とした。その教育効果の向上のために実施した工夫の中で特筆すべきものは以下の二つである。

(1) 大学入試及び編入学試験の過去問題を利用した演習授業及び提出課題の添削指導

開講時に受講生の志望校を調査し、その志望校と本学各学部の問題を中心に実際の答案への取り組み方について講義した。その後、受講生にその問題についての答案を提出させ、さらにその一人一人の答案に添削指導を施し、場合によっては書き直しを指示するなどの指導を行った。このような学生一人一人とのやり取りにより、思考力・文章力の向上を目指した。

(2) テレビドラマを利用した思考力養成

司法修習生を主人公としたテレビドラマ『ビギナー』を鑑賞し、その主人公である司法修習生のある殺人犯への判決についてその是非を議論してもらった。おとなしい受講生が多かったので、なかなか学生同士の議論にはなにくかったが、講師が司会役として間に入ることで全員が意見を述べられるよう工夫した。

2 学生の要望に対するフィードバック

また、学生の要望に対するフィードバックに関しては、講義最終日に授業アンケート（別紙参照）を実施し、学生の満足度等を調査した。その結果は、以下の通りである。（受講者は 7 人）

1 授業の満足度

1 大変満足した：57.2%（4 人） 2 満足した：42.8%（3 人） 3 あまり満足していない：0% 4 満足していない：0%

2 授業のわかりやすさ

1 大変わかりやすい：85.8%（6 人） 2 わかりやすい：14.2%（1 人） 3 あまり分かりやすすくない：0% 4 わかりやすすくない：0%

3 板書やプリントのわかりやすさ

1 大変わかりやすい：85.8%（6 人） 2 わかりやすい：14.2%（1 人） 3 あまり分かりやすすくない：0% 4 わかりやす

くない：0%

4 講義のスピード

1 大変適切：14.2%（1人） 2 適切：85.8%（6人） 3 あまり適切でない：0% 4 適切でない 0%

5 講師の熱意

1 大変感じられた：71.5%（5人） 2 感じられた：28.5%（2人） 3 あまり感じられない：0% 4 感じられない：0%

6 その他、授業について感じたこと

「特になし」「オープン講座の授業とても楽しかったです。先生の話もとても面白かったです。小論文コツコツと頑張ります。ありがとうございました。」「雑談が面白かったです。半年間ありがとうございました。」「先生のお話が毎週面白かったです。」

このように、概ね学生の評価は高かったといえるが、相対的に「講義のスピード」について満足度が低かったことが今後の改善すべき点だと言える。また、自由記述のところに講師の雑談のことだけしか話題に上っていないところも、講師としてはいささか寂しい点である。来年度はもう少し本講座の内容について受講生の印象に残るよう改善を加えていきたい。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015年 1月 30日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 (○) 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	イギリス文化事情
担当教員名	光田達矢

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

今年度からは、クイズを数回実施することで授業を通して緊張感が保てるようにした。また、私語が絶えなかったため、席順をはじめ導入し、その結果、ある程度静かになった。授業態度の特に良かった履修生には、名前を聞き出し、成績にも反映した。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015 年 2 月 25 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	児童文学
担当教員名	横田順子

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

- ・受講者数が多く講義形式のため、受講者ひとりひとりとコミュニケーションを取る機会がなかなかない。そのため毎回リアクションペーパーに授業の感想等を書いてもらった。直接質問や意見を出しにくい場合は、このペーパーに書いてもらうことによって対応した。
- ・初回授業時のアンケートではマルチメディアの利用を希望する声が多かったので、当初の予定よりも利用する機会を増やした。その結果、授業の進度がややゆっくりとなった。
- ・最終授業時のアンケートでは、授業の難易度については「ほぼ理解できる」「易しい」との回答が全体の 86.1%、授業の進行スピードについては「ちょうど良い」の回答が全体の 87.6%だった。進行スピードが「やや早い」と答えた受講者の理由には、パワーポイント画面の移行が速いことが挙げられたので、もう少し配慮しようと思う。
- ・講義内容をまとめたハンドアウト配布の希望があったが、講義を聴きながらノートをとったりまとめたりすることも大事な勉強のひとつなので、今後も配布はしない。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 25 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	書道 a
担当教員名	和田朱美

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

[学生のアンケート集計結果より]

- ・授業の難易度
- ・授業の進行スピード

上記 2 点は問題なかった。

- ・予習・復習の習慣

多くの課題をだすことがなかったので、改善点として、自宅学習ができるよう道筋をつける。

講義内容を繰り返し家庭学習することにより、きちんと丁寧に書く習慣を身につけさせたい。

[前年度まで及び前期授業からの改善点]

ただ字を上手く書くのではなく、どういう場面にこの言葉を使えば良いか、手紙を上手く書くにはどうしたらよいか等、本来社会に出て知っていなければならないことが、最近の学生には欠如している。

従って、知っていて当り前のことでも一度ただして、正しい一般常識を取得する方向に導くことを授業の本筋としたい。

本大学は高い専門性と豊かな教養を備えた女性を育てるための場であると思うので、品格のある教養を身につける書写教育を推進していきたい。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	平成 27 年 2 月 25 日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 (○) 選択 学科・課程専門科目： () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1 年 (○) 2 年
授業科目名	書道 b
担当教員名	和田朱美

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

書道教育と言えば、文字の造形教育と考えられがちであるが、本来は文字の成り立ちおよび、その時代背景、字体の変遷があることを見逃さず教えなければならない。

したがって、今後は書道史をところどころ授業の中に取り入れ、しかも書体の違いについて掘り下げて比較検討していくこととしたい。

また、暮らしの中での毛筆のニーズも踏まえて、表書きや署名の仕方等に力を入れていきたい。後期は授業がなかったため、学生のアンケートを取ることができなかったが、今迄の授業で、実用性を重んじた点は、学生に概ね好評であった。

「グローバルな人材を育てる」には、まず、自国の伝統文化をきちんと伝えられなければならない。

書道を単なる習い事と片付けず、進んで他国に発信、表現できる学生に育てるために、毛筆で慣れ親しませる身近な題材をどんどん取り入れていきたい。